

ホームページ事始め

高部英明

いささか遅きに失した感の標題である。グループの実情をより正しく伝えるホームページ（HP）が必要と思いつつ、今日に至った。

昨年、プラズマ・核融合学会誌に小特集（注1）を書いた際、LLNL（ローレンス・リバモア研究所）、DOE（米国エネルギー省）などのHPを丁寧に覗いた。たとえば、DOEの中でNIF(National Ignition Facility)はどこに属するかを追っていくと、DOEの組織図の中のDP(Defense Program)をクリックし、次にDPの組織図を見ると、そこに見つかる。また、LLNLでICF(Inertial Confinement Fusion)の理論・ターゲット設計を担当しているX-division(C. Verdonがリーダー)は、M. CampbellがヘッドのLaser Programsにはない。Defense and Nuclear Technologyに属していることがわかる。しかし、組織表のX-div.をクリックしても画面が出ない。そこで、他のルートを通して、ようやくX-divisionのHPに入れた。このような経験を何度かし、昨年、核融合研の加藤教授（企画・情報セ）の研究会で「事実は必ずしも真実ではなく、真実は相反する事実を内包することがある」と講演した。

HPがこれだけ進んでくると「建前と本音」の使い分けは不可能な時代になる。米国のHPを見ながらそう感じた。DOEの前長官のPeneなど、自己紹介のページで、家族のことも触れ、奥さんが世界的に有名なマラソン・ランナーであること、休暇を家族と何処で過ごす、など書いていた。読むだけで、自然とその人の顔が浮かび、親しみが湧く。

最近、落合信彦の「烈炎に舞う」という天安門事件前夜を題材にした小説を読んだ。彼は常日ごろ「日本は情報オンチであり、世界にとり残される」と警告を発している。今やHPは情報の最先端におどり出たと言えようか。

そこで、自分なりにHPを作った。高部グループのHPは各人が各人のページを作る、を原則にしている。個性が大切だからだ。皆さんもHPを作って、自己を表現して下さい。しかし、この時、一点、忘れてないで欲しいことがある。それは「節度と品位」を保つことである。先日、東大のHPを見ていて、ある研究室の学生紹介のページで、サウナの中らしいところで、半裸姿の6人の学生の写真が現れ、おぞましいやら、悲しいやら、東大でこの程度かと淋しくなりました。レーザー研では、「うちのおかん」で物議をかもした経緯を忘れないでいただきたい。

核融合研究の情報公開が他分野より叫ばれています。ITER（国際熱核融合実験炉）問題に関連して、学会会議でそのような発言が目立ったそうです。物理学会誌の6月号に若谷氏らがITERについて書いていましたが、たかだか6ページの解説で、5千億とも1兆とも言われている計画の妥当性を判断できるでしょうか。まだ、ITERのHPを見ていませんが、そこにオイルショック以降の社会・歴史の変化、冷戦構造の崩壊、環境問題の緊急性など劇的な世紀末の出来事を踏まえた「何故、今、ITERなのか」の論議が展開されていることを期待しています。

情報公開はITERに限ったことではありません。レーザー核融合も、成果・現状・展望を第三者にわかるように伝えていき、第三者がなるほどと思う研究計画を示していく必要があります。HPは、その一手段として重要ですし、「阪大レーザー研、バンザイ」調の第三者にとって魅力に欠ける内容にならず、研究者の顔と頭の中が見えるHPとして、世にアピールしていくべきだと考えています。

（以下参考）

プラズマ・核融合学会誌—小特集—「高強度レーザーを用いた実験室宇宙物理」、98年11月号, pp. 1254-1309. 高部は「はじめに」を執筆。読んでみて下さい。

- ・ LLNL: Lawrence Livermore National Laboratory の略。
- ・ ITER: International Thermonuclear Experimental reactor の略。トカマク型、日本では原研が中心になり計画を推進しようとしている。
- ・ NIF: National Ignition Facility の略。現在 LLNL に建設中の約二千億円のレーザー装置。
- ・ DグループHP: <http://www.ile.osaka-u.ac.jp/research/CD/D/>
- ・ DOEのHP : <http://www.doe.gov/>
- ・ DP(DOE)の HP : <http://www.dp.doe.gov/>
- ・ LLNLのHP : <http://www.llnl.gov/>